

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 6, No. 2 神奈川県立 生命の星・地球博物館 June, 2000



ニホンザルの新生児

Macaca fuscata

頭本昭夫撮影(1999年7月)
(当館哺乳類ボランティア)

広谷浩子(学芸員)

生後1ヶ月のニホンザルの赤ちゃんです。毎年、4月から6月ごろがニホンザルの出産シーズンです。博物館の近くにすんでいる群れでも、次々と赤ちゃんが生まれています。生まれたばかりのニホンザルは顔が赤く、耳が大きく、お母さんたちにくらべ毛の色が黒っぽいので、遠くからでもよくわかります。生後1ヶ月ぐらいはお母さんがしっかりと胸に抱いて守ってくれ

ます。赤ちゃんもお母さんのお腹にしっかりとつかまったまま、どこまでも運ばれていきます。1ヶ月を過ぎると、ひとりで動きまわるようになりますが、まだまだあぶなっかしい感じです。

初夏になって、群れは食べ物をもとめ、以前よりも活発に歩き回るようになりました。新芽や花や果実がたくさんあって、サルの食卓も豊かです。